



The library news



夢の図書館

7月号（第209号） 2019年 7月19日発行

この7月号で1学期の夢の図書館が終了します。次に発行するのが2学期の9月号になります。夏休みの間にたくさんの思い出を作り、たくさんの本に出会い、たくさん勉強をして欲しいと思います。

これからも夢野台図書委員会は皆さんが素晴らしい本に出会えるように紹介していきますので、自習だけではなくちょっとした息抜きに図書館に来て本を読んでみてください。

図書委員のおすすめ本

「妖怪アパートの幽雅な日常」

香月 日輪 著

共同浴場は地下洞窟にこんこんと湧く温泉、とてつもなく美味しい食事は「手首だけの」賄いさん。

皆さんは幽霊や妖怪を信じたことはありますか。

十三歳で両親を失った稲葉が高校進学と同時に入居したのは“妖怪アパート”と呼ばれているところでした。

(2年 S.K)



「読書間奏文」

藤崎 彩織 著



直木賞候補作「ふたご」の作者が、本を通して、自身のターニングポイントを綴る、初のエッセイです。

孤独であることを自分にも周りにもごまかすために本を開いている人、本の魅力に気付いていった人、そんな人たちを描いています。本が好きな人にはもちろん、本の魅力にまだ気付いていない人など様々な人におすすめします。前作「ふたご」につづく感動作です。ぜひ読んでみてください。

(2年 K.S)

「謎解きはディナーのあとで」

東川 篤哉 著



国立署の裁判刑事、宝生麗子は世界的に有名な『宝生グループ』のお嬢様。『風祭モーターズ』の御曹司である風祭警部の下で、数々の事件に奮闘中だ。大豪邸に帰ると、地味なパンツスーツからドレスに着替えてディナーを楽しむ麗子だが難解な事件にぶち当たるたびに、その一部始終を相談する相手は“執事兼運転手”の影山。

「お嬢様の目は節穴でございますか？」

暴言すれすれの毒舌で麗子の推理のなさを指摘しつつも、影山は鮮やかに謎を解き明かしていく。2011年本屋大賞受賞ミステリー

(2年 M.I)

「ビブリア古書堂の事件手帖」

三上 延 著



就職浪人中である主人公五浦大輔は、祖母の遺品の夏目漱石全集に書かれたサインの鑑定のために、ビブリア古書堂を訪れる。入院中の店主の元に行ってみると、そこには高校時代偶然見かけた美しい女性がいた。人見知りだが古書の知識は並大抵ではない彼女は夏目漱石全集の謎を解き・・・。

これは彼女と奇妙な客人達が織り成す“古書と秘密”の話

(2年 S.K)